

# 横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果

## —平成23年6～10月—

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として市内公園および港湾地区において感染症媒介蚊生息状況調査を行っています。その地域特有の蚊の生息状況を把握しておくことは、ウエストナイル熱やデング熱等の蚊媒介感染症が発生した場合に、防除対策計画を立てるうえで重要な資料となります。平成23年度は、6月から10月にかけて横浜市内19ヶ所（各10回）で、各区福祉保健センター生活衛生課と連携し、蚊成虫捕獲調査を行いました(図1)。調査には、CDC型バッテリー式ライトトラップという昆虫類を捕獲する機器を用いました。蚊を誘引するためにドライアイス1kgをトラップ屋根付近に設置し、トラップを原則として一昼夜運転しました。採集された蚊は調査地点ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当に供出しました。蚊媒介感染症ウイルス検査結果については後日横浜市衛生研究所HPに掲載する予定です。今回は、市内における蚊成虫生息状況調査結果について報告します。

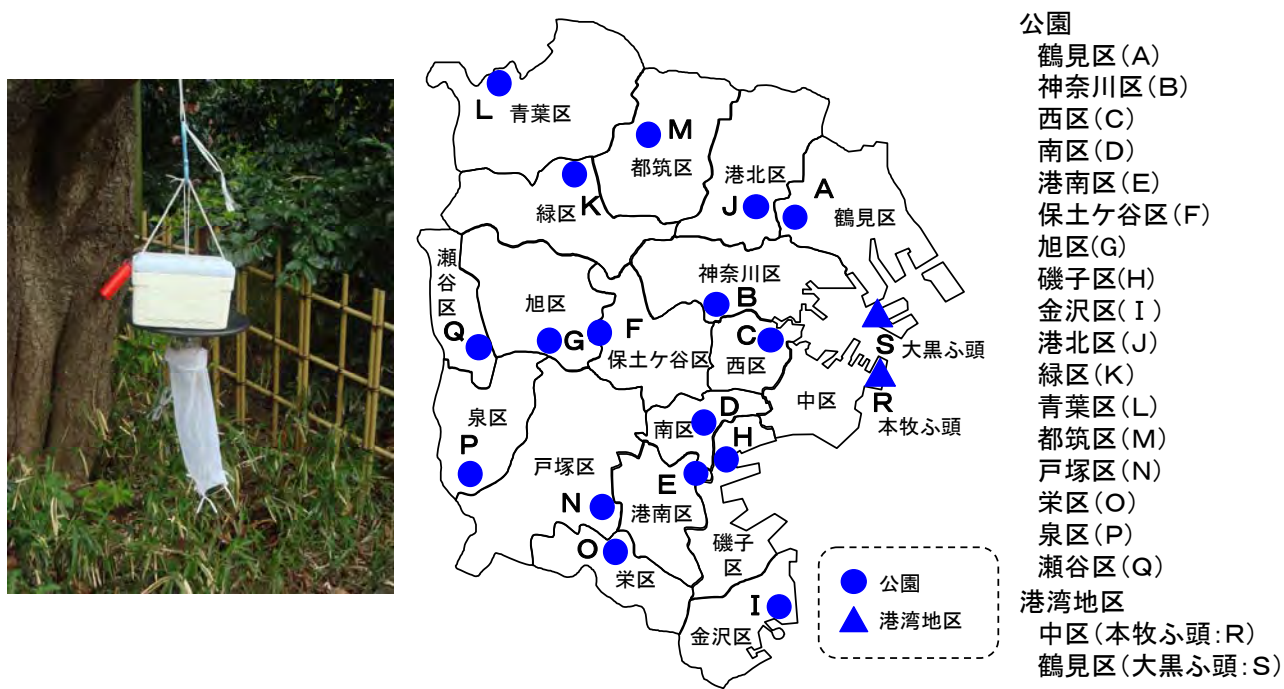


図1 調査地点とライトトラップの様子

### 〈捕獲された蚊の種類と個体数〉

平成23年6月から10月に行った調査で捕獲された蚊の種類と個体数を表1に示しました。捕獲された蚊成虫は、6属11種7,170個体(破損が激しく同定不能な13個体を含む)でした。

最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ5,670個体(79.1%)でした。次いで、アカイエカ群\*1が1,064個体(14.8%)でした。また、ヤマトヤブカが198個体(2.8%)、キンパラナガハシカが147個体(2.1%)捕獲されました。

\*1:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれます。3亜種は外部形態だけでは、実体顕微鏡下での同定が難しいため、多くの調査ではアカイエカ群として扱われています。

表1 捕獲された蚊の種類と個体数

属	種	個体数		
		雌	雄	合計 (%)
イエカ属	アカイエカ群	1,060	4	1,064 ( 14.8 )
	コガタアカイエカ	36	2	38 ( 0.5 )
	カラツイエカ	9	1	10 ( 0.1 )
	ヤマトクシヒゲカ	0	3	3 ( 0.04 )
	ミナミハマダライエカ	1	0	1 ( 0.01 )
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	4,966	704	5,670 ( 79.1 )
	ヤマトヤブカ	196	2	198 ( 2.8 )
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	19	0	19 ( 0.3 )
ナガハシカ属	キンバラナガハシカ	115	32	147 ( 2.1 )
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	1	1	2 ( 0.03 )
チビカ属	フタクロホシチビカ	2	3	5 ( 0.07 )
その他*2		12	1	13 ( 0.2 )
合計		6,417	753	7,170



\*2: 破損の激しいもの

### 〈調査地点別の蚊捕獲数〉

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、緑区内公園(K)で1,092個体、次いで西区内公園(C)で1,020個体捕獲され、ヒトスジシマカ優占でした。一方最も少なかったのは、磯子区内公園(H)で96個体でした。また、公園はヒトスジシマカが優占でしたが、港湾地区の中区本牧ふ頭(R)はアカイエカ群優占、鶴見区大黒ふ頭(S)はアカイエカ群、ヒトスジシマカの2種優占でした。

アカイエカ群とヒトスジシマカの生態は、検査情報月報2011年1月号「[横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果\(平成22年6～11月\)](#)」に掲載されています。参考にしてください。

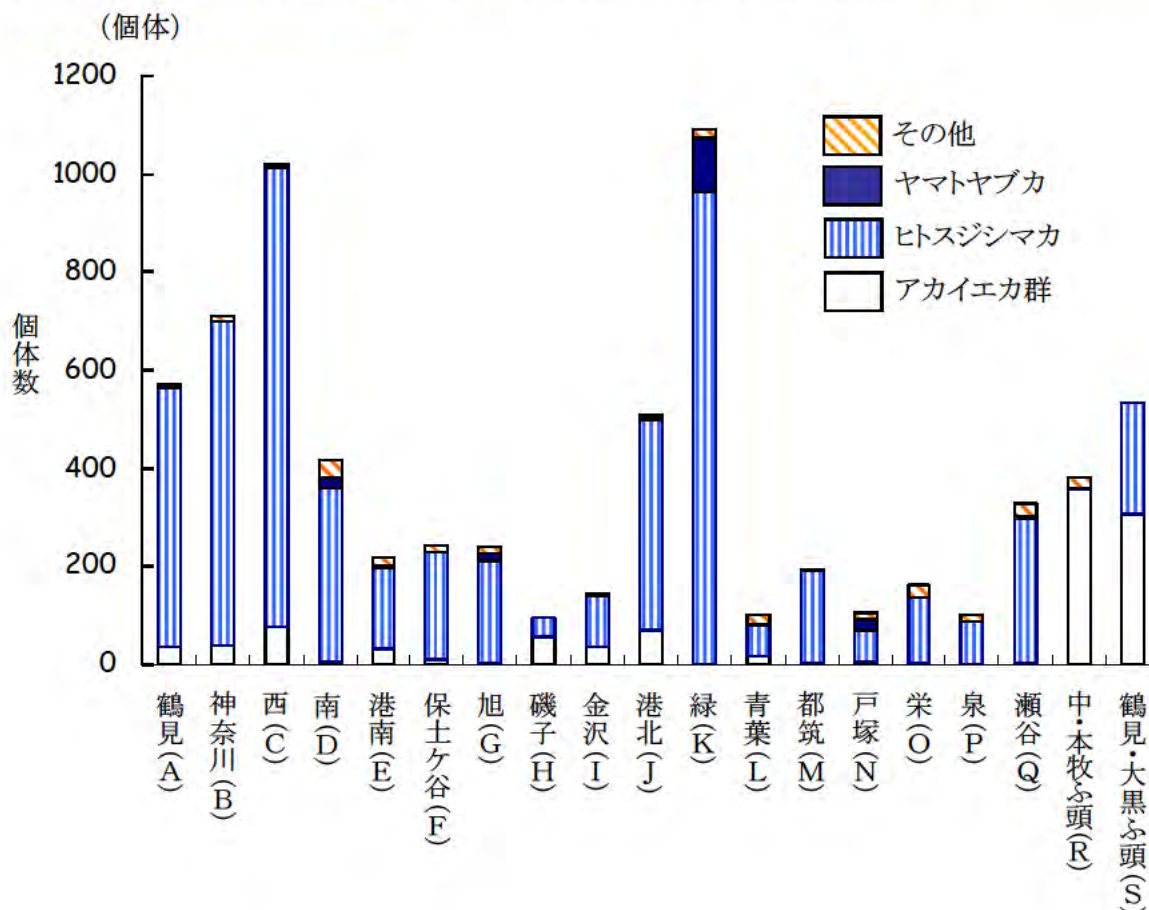


図2 調査地点別の蚊捕獲数

【 検査研究課 医動物担当 】